



1. 制度概要

制度概要

- 地方独立行政法人法に基づき、知事が議会の議決を経た上で中期目標を策定
- 研究所は当該中期目標を基に中期計画を策定し、調査研究などの業務を実施
- 知事は研究所の毎年度の業務実績等について評価を行い、その結果を議会に報告

令和8年度の評価対象

令和7事業年度の業務実績に関する評価

※ 学識経験者等で構成される評価委員会（令和8年7月開催）から意見聴取



(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

2. 令和7事業年度の業務実績に関する評価結果

評価結果

全体評価：全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している

（以下1から3の項目全てにおいてA評価（目標どおり達成））

■ 評価委員会の主な意見

- 全体を通して、研究の継続性が着実な成果として積み上げられている点を高く評価
- 大阪・関西万博や、全国豊かな海づくり大会等の機会を活用した取組を評価
- 農の担い手不足を解消する上で、農業大学校における担い手育成等の取組を非常に期待

主な取組実績

※S・A～Dの5段階評価（うち A評価＝計画どおり）

1. 府民サービスに係る技術支援の実施及び知見の提供

A評価

○全国豊かな海づくり大会に向けた機運醸成

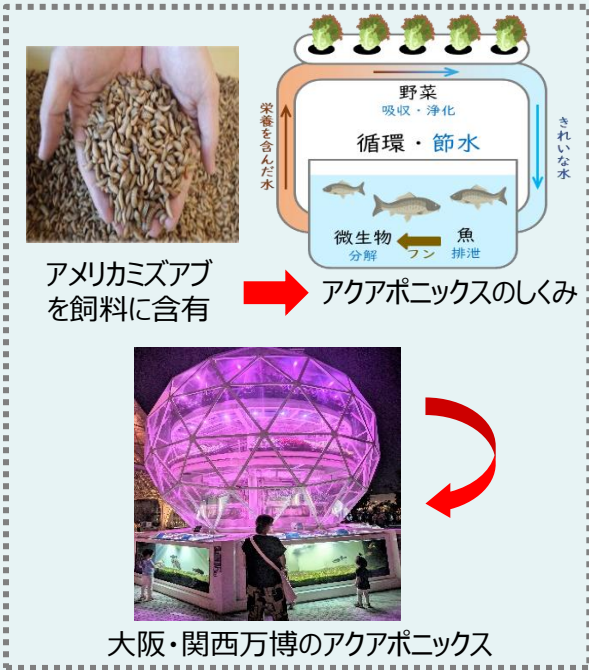
- ・放流魚種及びお手渡し魚種の種苗を生産。1年前プレイベントへの種苗提供や小学校での出前講座を実施し、大会開催に向けた機運醸成に貢献



海づくり大会に向けた
小学校への出前講座

○大阪・関西万博を契機とした研究成果の発信・活用

- ・アクアポニックス展示「いのちの湧水(いずみ)」において、食品残渣由来のアメリカミズアブを活用した飼料を提供し、循環型農業生産システムの実現に貢献
- ・「冷凍きくな」を活用し、事業者と草餅を共同試作。加工品のブランド力強化に寄与



○野生鳥獣対策への技術支援

- ・ツキノワグマの出没について、痕跡鑑定等の技術支援など、研究所が実施するモニタリング調査の成果を活用

○農の担い手育成

- ・農業大学校におけるカリキュラムの充実をはじめ、「令和7年度全国農業大学校等プロジェクト発表会」で学生が優秀賞を受賞するなど、農の担い手育成に寄与

2. 調査研究の効果的な推進

A評価

- ・研究所で育成した単為結果性水ナスについて品種登録を出願するとともに、泉州地域の水ナス生産者3ほ場で試験栽培を実施し、現地普及に向けた取組を推進
- ・科研費（競争的研究資金）の採択率が、3年連続で50%以上を維持
令和7年度は採択率67%を達成し、研究活動の活性化と研究力向上に寄与



冷凍きくなを用いた草餅

3. 業務運営、組織運営、財務内容等の改善と効率化

A評価

- ・重点テーマ等の調査研究課題について、プロジェクト・ラボラトリー（プロラボ）を設置し、所内横断体制のもと、効率的かつ効果的に調査研究を推進



単為結果性水ナス